

第二十五号

別記目次に通へラルトエコーレボ
計八葉譯成、乃佐高覽也



明治十二年二月十日

及譯係



414
A1426
1



4058



目次

一 政府壹分銀ヲ造幣局ニ輸送セシメ
一 日本國經濟產業ノ景況并ニ大隈氏カ決算報告書ヲ
論ス

る也

ハラルト訊三月七日刊行

兵庫近事

東京日々新聞ニ笑フヘキ一事ヲ記セリ曰ク輓近玄海
丸ヲ以テ壹分銀一億三千九百弗ヲ輸送セリト則チ其
實ハ壹分銀二十九萬八千二百七十八箇其價九萬八千
弗ヲ三十四箱ニ裝シ玄海丸ヲ以テ大坂造幣局ニ輸
送セシナリ然レトモ紙幣ハ依然低價ニ在リ而テ貿易
ハ余輩ガ輸入商ヨリ聞ク所ニ據レハ繁劇前ニ減セサ
ル而已ナラス或事項ニ於テハ一層ノ景氣ヲ加ヘタル
ガ如レト又二三日前ヨリ流布スル巷説ニ或外國銀行
ハ日本政府ニ三百萬弗ノ貸金ヲ已ニ約セシトカ或ハ
今約セントスト蓋シ政府ガ時々市場ニ正金ヲ供給ス
ル公正ノ率ハ紙幣ノ價ニ好成果ヲ生ス可キハ明クナ

り何トナレハ上文ニ記スルガ如キ金額ハ恐クハ流通
紙幣ノ百分一ニモ充タサルヘシト云々紙幣ハ多ク閑
港場ノ外ニ排斥セラレ下落ヲ生ムルハ専ラ閑港場ニ
在レハナリ而テ内地ニ於テハ其効用金銀貨ニ異ルト
ナシ

るる

日本國理財經濟産業ノ景況ニ大隈氏ガ決算報
告書

千八百七十五年ヨリ七十六年迄ノ會計年度ニ係ル大
藏卿ノ報告書ヲ掲ケルノ意外ニ遲滞マシテ罪ハ吾
輩ガ既ニ看官ニ謝セル所ニシテ而メ看官モ其大部ナ
ルガ故反譯ニ幾多ノ時日ヲ要スルヲ了セシナラシ
モ該報告書ハ極メテ重要ナルモノナレバ吾等其全本
ヲ省キ約畧ノミヲ掲ケテハ心ニ満足スル能ハム今ヤ
吾輩總体論ヲ該件ニ下サントスルニ當リ(現今ノ有様
ニテハ)總体論ニ非ナレバ為ス可ラサル所以ハ後段ニ
説クガ如シ)先ツ日本ノ理財經濟産業ニ係ル景況ニ就
キ極メテ簡短ニシテ而モ善ク新法ノ可否ヲ察シ且如
何ナル方法ニ據テ此困難ナル事業ヲ遂成シ鞏固ナラ

レハ可キヤヲ看ルヲ得可キ所ノ畧論ヲ為サシ
方今諸相場ノ辟易シテ當ル可クサレ大盤石ノ如キ因
難ハ貨幣ノ大変動ニシテ一時ノ治法永久ノ治法ヲ以
テ之ヲ止メンイテ人ノ試ミル所ナリ此弊ヤ元來國家
ノ信用ニ大憂慮ヲ生スル性質アル紙幣ハ市上ニ溢流
シテ貨幣ノ欠乏セルニ因ルハ論ヲ待タズ且夫紙幣ハ
内國産業ノ繁昌ナルニ依テ得ル所ノ價值ノ外真ノ價
値ヲ有セザルモノナルガ故ニ危嶮モ從テ大ナリ然リ
而シテ此價值ハ改良シ得可キ巨大ナル天然ノ國産ト其
方法ヲ教示シ得可キ一國ノ人智ヲ基礎トシテ後日ニ
幾望スル産業ノ繁昌ヲ現ハスノミナルガ故目今ハ有
名無実仮定ノ價值ナリ後日日本ノ産業全國ニ繁昌ス
ルニ至ラバ其時コソ紙幣資本ノ仮定價值ハ始メテ真

る

正ノモノトナラン然レモ是レ未タ何レノ日タルヲ期
ス可ラズ實ニ悠久ノ事ナリ
之ガ適切ノ例ヲ示ス者ハ合衆國ナリ千八百七十一年
ニ於テ紙幣ノ價值ハ正ニ其代用スル金貨ノ量目ノ價
値ト同等ナリキ而シテ當時全國之ヲ信用セリ其後下落
ヲ起シ紙幣ノ一帛ハ僅ニ二十五仙ヲ代用スルニ至レ
リ然ルニ今日工業ノ非常ナル進歩ニ依テ紙幣ノ一帛
ハ銀貨ノ一帛ニ勝リ其價值ハ金帛ノ價值ノ對等ナリ
大隈氏ハ古ノ如ク米國ニ有リシニ着眼シ万一テ僥
倖シテ理財法ヲ立テシナリト確言スル者アリ然レ氏
此國ハ米國ニ非ス又歐國ニモ非ス且ニ二國ニテ幸運ヲ
得タリトテ日本國ニテ模倣ス可クサルヲ了解ス可シ
米國ト日本ノ生活ノ方法ハ全ク殊別ナリ故ニ米國ノ

太
政
官

富ヲ致セシ事ハ却テ日本ノ貧ヲ致サン
且夫紙幣ノ米國ニテ羨効ヲ奏セシハ米國ハ已ニ産業
旺盛ノ國ニシテ且成人國ナリ日本國ハ後令ヒ工事ニ
長スルモ人民未タ廉價ニ物品ヲ產出スルヲ能セス是
レ一ノ大問題ナリ且近世ノ生活ニ入りシヨリ僅ニ十
年未タ能ク之ニ熟セス且十年ヲ以テ豈能ク一國ノ風
俗性質ヲ改訂スルヲ得ンヤ

初ノ大隈氏カ新紙幣(圓錢紙幣)ヲ造ルニ當リ其思想ハ
其國人ノシテ外國人ノ羈絆ヲ脱セシムルニ在リシ
疑ヲ容セス往時日本ノ商人ハ輸出ニ供スル產物ヲ時
價ニテ販賣スルニ決スル迄之ヲ抵当トシテ貸付ヲ英
仙若シクハ米ノ銀行ニシハザルヲ得ザリシニ往々
リキ當時此貸付ノ利息ノ割合ハ一ヶ月百ニ付キ一分

る

半或ニ分ナリシモ今日ハ紙幣ノ功ニ依リ内國商人ハ
内國ノ銀行ニ往テ貸付ヲ受ク其利息ノ割合ハ一ヶ月
百ニ付キ一分ニシテ需要ノ少ナキハ百ニ付キ五厘
ノ成モアリ是レ實ニ一大進歩ナリ
忽チ又他ノ一進歩ヲ生ス内國ノ産業ハ資本ヲ需要ス
ト雖モ紙幣ノ發行ヲ政府ニ請ハシテ信用ヲ失フノ
恐レアルハ人ノ能ク解スル所ナリ依テ道ヲ轉シ士族
ノ祿ヲ国立銀行ヨリ發行スル紙幣ノ一種ニ替ユル
思考ヲ起シ之ヲ施行マシニ依リ有期公債書ト為テ士
族ノ手裏ニ留リ動カザリシ資本ハ諸府縣ニ設立セル
銀行ノ媒介ニ依リ融通資本ト變セリ
此時マテハ大害モ有ラス且紙幣ノ製造ハ一ノ必需件
ナレバ故萬事從テ都合宜シカリシト云フヲ得タリ各

紙幣ハ發行ノ片ニ當リ公財ノ一部分ヲ代用シテ金若
シクハ銀貨ノ對等價格ニ交換シ得可ク又内國工業ノ
達スル進歩ノ大小ニ從テ或ハ騰貴シ或ハ低下スル一
種ノ抵當証券ナリレド見做スルヲ得タリキ
政府ハ其紙幣ヲ發シテ宛モ其土地ノ價格ノ全部或ハ
一部ノ高ニ至ルマテノ金額ヲバ其土地ノ產物ヲ賣却
スル日ニ於テ拂ハント約スル切手ヲ發セシ巨大ナル
地主ノ如キ地位ニ居レリ
政府ハ斯ノ如キ地位ニ在レハ宛モ彼ノ地主ノ收穫ヲ
賣却スル後ニ至ルモ發シ人其辨償ヲ乞ハス且其延期
ヲ禁セラル、一無キ片ハ曩ニ出セル切手ヲ其差置
クヲ得んガ如ク流通紙幣ヲ退クルヲ要セサル一論ヲ
待タカニニ以タリ

然リト雖モ大領地ノ如ク見做サレ、日本國ノ估價マ
ラル、價值ヲ以テ立テん紙幣ノ實價ハ暫時ニ変マ
ス、雖モ元來紙幣ハ商業上日々急速ナル交換ノ媒介
ト為テ價ヲ有スル者ナルガ故產業衰頹スレハ其後事
スル交換ニ減シ其價值低下ス故ニ紙幣ノ高低ハ全
ク產業ノ盛衰ニ関スルモノナリ
然リ而シテ貨幣ハ只金ト銀トノ割合ノ變化ノミニテ多
年間其價格ヲ變セスト雖モ紙幣ハ然ラズ單ニ内國產
業ノ盛衰ニ依テ相場ヲ定メラレ甚ク變化シ易キモノ
ナルカ故金銀貨ニ比スレハ下等ノ交換媒介ナルヲ到
底争ヒ難キ所ナリ茲ニ實地ノ證ヲ示サン紙幣一圓ニ
テハ一歲中同量ノ米ヲ買ヒ得ルヲ必シ難シト雖モ金
銀貨ナレハ大抵之ヲ必ス可シ米價騰貴スレハ金銀モ

亦騰貴ス故ニ紙幣ハ交換媒介ト為テ尤モ便宜ノ場合
ニ際スルトモ雖モ貨幣ト對等ナルヲ能ハス当初ヨリ若
干ノ低下ヲ生セシナリ
是レ紙幣ノ発行額國力ヲ超過セス加ルニ産業之ニ附
與スルニ其代用スル金銀貨ノ價值ト對等ノ相場ヲ以
テ得ルノ度ニ達スルモ到底地主ノ切手ノ理ヲ以テ
推ス可ラザル所以ナリ
是ヲ以テ内國ノ産業常ニ進歩スト想像レ且期望レ得
ル間ハ紙幣ト貨幣ノ差異尠少ナリト雖モ不幸ニレテ
此妄想ヲ保ツテ能ハザルノ日ニ至レハ其差異ハ增長
シテ大ニ懸隔ス
故ニ交換ノ媒介ヲ造テ後之ヲシテ其代用スル貨幣ト
同等ノ價值ヲ保タシムル為メ第一ニ為ス可キ事ハ内

るワ

國ノ産業ヲ一定ノ進歩ニ便宜ナル地位ニ置クニ在リ
サレバコソ去歲勸業事務ハ千二百万圓ヲ給與セラレ
タリ其大藏省ノ管轄ニ屬セラレシハ大藏卿ガ洪羊祭
行セシ新紙幣ニ十分ノ價值ヲ附與スルヲ任セラレシ
以テナリ
儲又數ヶ月以來ノ紙幣ノ下落ニ至テハ必定其原因ナ
ラント察スル所ヲ示セルヲ已ニ數回ナリ此頃一友人
善ク心ヲ時勢ニ留ムル者告等ニ告ルニ他ノ原因ヲ以
テセリ是亦黙々ニ附ス可ラス抑モ日本ノ産業ハ後令
能ク旺盛ヲ致スヲ期ス可シト雖モ今ヨリ良久シク外
人ノ力ヲ借ラサレバ容易ナラジトハ一日ニテ瞭然ナ
リキ然ルニ外人ヲハ協議同力ノ結社負ト為サズ被雇
者或ハ顧問(是レ日本ノ外人ニ附スル所ノ名称ニシテ

目今重モニ外人へ授クル官職ナリトシテ其カヲ借ラ
ント断然決定セリ蓋シ顧問ト稱スレバ多少其言ノ納
レラル、ハ勿論ナレト概テ不學不慣ナル内国人ノ指
揮ニ從ハサル可ラス

斯ノ如キ方法ニテ立テ、行ハル、商業上ノ起見ハ功
ヲ成サ、リシテ經驗ニ依テ分明ナリ此方法ヲ以テ起
セル産業ハ決シテ盛ナラズ蝦夷下然ノ開拓大坂其他
ノ製糸製茶若シクハ製藍等是其証迹ナリ是故ニ百ノ
如キ設立方法ヲ以テ着手スル産業ノ不便ナルハ論ヲ
待タズシテトス可シ

此方法タルヤ日本国人工徒タルノ位地ヲ脱セタル中
ハ行フ可ラスシテ破滅危険ノ憂慮アリトス茲ニ其比
喩ヲ示サン後ニ精巧ノ馬車ヲ購ミ之ニ懸クニ最良ノ

名馬ヲ以テシ御ニ長スル者ヲ參乘マシムルモ不會不
熟ノ者ヲシテ韁繩ヲ執ラシメバ途上些ノ凹凸些ノ障
礙ニ逢フ毎トニ馬車ノ激動ヲ免ル難ハズ遂ニハ馬車
ヲ損傷セン之ニ侍スル長技ノ御者代テ韁繩ヲ執ルニ
非ス只其傍ヨリ教示スルノミニテハ到底無益ナリ然
ルヲ猶ホ依然トシテ此方法ヲ以テ拙技ノ者ニ御ヲ學
バンメバ其業ヲ遂ルマテニハ幾多ノ馬ヲ傷ツケ幾多
ノ車輪ヲ折シキ幾多ノ馬車ヲ破ラン
是レ方今ノ形勢ニ就テ思考スル所ヲ明瞭ニ解スル比
較ナリ其無礼ナルハ容赦アレヨ吾等ハ産業其他ノ事
業ニ於テ生徒其師ヲ辭シテ獨行シ得ル為メニハ猶ホ
幾多ノ歲月ヲ要スト信シテ再三縷述セサルヲ得ス
茲ニ又前段或ハ前号ニ於テ枚挙セシ紙幣下落ノ原因

ノ外ニ結局ノ原因アリ何ソヤ紙幣ノ発行ノ過急ナリ
シナリ源ラク産業ノ起ルニ從テ漸々逐次ニ発行ス
可カリシニ未チ生セナル供給需要ヲ預想シテ一概ニ
市場へ濫出セシハ下落ノ原因ナリ
此濫出セル資本ハ全ク所用ナク下落シテ投機賭博者
ノ手ニ陥リ別ニ流通ノ道ヲ得ルノ日ニ至ラサレハ出
ル能ハズ布告布達ヲ以テ之ヲ禁スル氏國人其金錢ヲ
用ニル所ナキ故交換上ノ昇降ニ輸贏ヲ争フテ止メズ
投機ノ道ニ暗キ者或ハ自身之ニ関スルヲ欲セサル者
ハ相場師ニ託ス相場師手教料ヲ収メ代テ事ヲ行フ是
レ目下之ニ見ル所ナリ此醜業ノ結果ハ真正ノ利益ノ
所在ヲ失ハシムルハ万国一轍ナリ
現今開業スル内國銀行ノ頭取中善ク其業ヲ知ル者幾

るの由

許人カアル僅カニ指ヲ屈ス可キノミ加之波等ガ管理
スル資本ヲ要スル産業興ラス融通ノ途閉塞スト雖モ
其株主ノ利息ト分配金ヲ授クル為メ公債證書ノ利子
ニ勝サル益金ヲ生セシメサル可ラズ是ヲ以テ我等ガ
此融通閉塞ノ初頭ニ當リ曾テ詔告セシ如ク渋澤氏ノ
頭取タル第一國立銀行ハ準備紙幣ヲ託スルノ外別ニ
良法ヲ得サル銀行頭取許多ナリ渋澤氏ハ先ツ智巧ノ
人ナル故諸種ノ方法ニ依リ彼拙劣ナル頭取等ハ其預
ケ金ノ利子五六分ヲ授ケ自身ハ十分ノ手数料ヲ占ム
ル程ノ利益ヲ其資本ニ生スルヲ知ル許多ノ新立銀行
ノ資本ハ眞実正當ノ所用ナレト雖モ今日迄維持スル
ヲ得ルハ他ナレ右ノ方法ニ依ルノミ吾等能ク其原因
ヲ知道ス

1426
2

綴一九号

明治十二年三月十二日

友沢係

平井

別記目次に通エコービエヤホン 新設計
評成るは供高の免也

第二十一号

借者等が右ニ縷述セシ所ヲ以テ世人ハ了解セシ大藏
卿ハ其出等ノ明智老練ノ意見ト真ノ改進黨タル氣象
ヲ以テ頌テ波ノ政府ノ便宜使用ニ任スル資本タル
客歳ノ起業公債千二百万圓ヲ以テ内國産業ヲ興シテ
盛ナラシムル為ノ適宜ノ方法ヲ斟酌スルヲ急務トス
可シト又外面ノ開化ニ非ズ内部ノ開化十分ナル迄ハ
外人ヲ欠ク可ラス宜ク其力ヲ借ル可シ又首唱ト管理
ノ權ナキ顧問ヲ置テ満足スルヲ勿レ是レ障礙ナリ其
他ハ猶ホ即今世人ノ目撃スル困難ノ事件ト共ニ英
起テ覺知セシムル所アラントス
エコービエヤホン
新聞

天
限
一
年
四
月

〇

目次

一 日本國經濟產業ノ景況并ニ大隈氏カ決算報告書
論ス前号ノ續

正コトジユジヤボン新聞

大隈氏カ容蔵 白千八百七十八年
至千八百七十九年ノ歳計報告書ノ公布

ノ内吾輩ハ容赦ナク其若干部止ニ増減並進ニ限スル

考説ヲ下セリ吾輩ハ收入部中若干ノ減縮ノ十分

解セウレサルト支出部中若干ノ増加ノ日本理財景況

ニ相替セサルヲ驚異セリ然レモ吾輩ハ又同時ニ於テ

日本樞要ノ行政長官タル英名ノ人ノ賞賛ス可キ所ハ

賞賛セサル可ラスト思考セリ抑モ日本政府ノ計算ノ

順序規法ヲ一定セル大改革ノ基奉テ日本ニ立テシ名

譽ハ大隈氏ニ歸ス可シ又夕此新法ヲ創メシ時代ノ利

頭ノ計算ヲ立テ清楚スルハ其事業ノ緊要ノ増補ナリ

キ而シテ其報告ハ大蔵諸計善ノ基礎タシガ故其功ハ別

レテ称ス可シ其業ハ殊ニ貴ク可シ礎ハハ路ヲ作ルカ

如シ一、タ、地ノ障礙ヲ排ヒ路線ヲ通スレハ其餘ノ
事ハ只些ノ凹凸ヲ削リ屈曲ヲ正シ地面ヲ固ムルニ在
ルノ是是等ハ只配意監督ヲ要スルノ是ヲ以テ吾輩
ハ今回刊行セル大邦書ニハ己ニ此篇ノ起頭ニモ云
ルカ如ク總体論ニ非サレハ下ス可カラズ未ク細目ノ
批判ヲ為ス可ラス如何トナレハ是大隈氏ノ事
業ノ基礎トスル所ナルカ故ナリ大隈氏
ハ實況ヲ掲ケテ其ノ詳細ヲ明白ニ列次
シテ示セリ体裁上ニハ一、点ノ瑕疵ナシ
其ノ細目ニ考 說 批判ヲ下ス、後日、大
算ニ至リ比較標準ヲ取り且時勢ノ如何ヲ
察スルニ非レハ能ハス
然リ而シテ大蔵卿ハ吾輩ガ曩ニ千八百七十八年

ヨリ九年迄ノ歳計各ヲ記載シテ點檢セシ片ニ陳述セ
シヲ茲ニ再陳スルヲ許サレヨ蓋シ卿カ歳計各ヲ
編纂セシハ誠心実意ヲ以テセシハ吾輩ガ信服スル
所ナリ又歳計ヲ立テシハ焦心苦慮シテ定メ、又
各ニ基キレテ吾輩ガ信シテ疑ハサル所ナリ茲ニ
試ミニ問ハシ大隈氏ハ豫算表ノ確乎トシテ大違算
ナキヲ保証シ得ルヤ、大隈氏英ニ其同僚ハ支出ノ豫算
ヲ定ムル前ニ国民ノ脈ヲ診斷シテ其力ヲ試ミニシヤ
人ハ各款項ニ載セシ費用ニ任スルヲ承諾セシヤ之
堪ユルノ力ヲ有セシヤ各款項ニ定メシ額ハ用ユ可キ
通りニ用ミテレ超過セサルヲ必シ得ルヤ抑モ日本
方今ノ制度ニテハ何事ニヨラス嚴密ノ監督ヲ行フ
蓋シ難事ナリ其制度スルヤ各上長官全權ヲ有ス

ルカ故検査ハ行ハレ難シトス

千八百七十五年ニ大隈氏ノ行ヘン 財政^改革ハ同時代ニ
行ハレシ諸新法中獨リ真正ノ初驗アル性質ヲ
有レ且争フ可カラサル精カク有スル者タル
ノ間然ス可カラス元老院地方官會議大審
院ノ如キハ善ク時勢ヲ看察スル者ヨリ見レ
ハ臨機應変一時已ヲ得サレノ設立ニ係ル者
ニレテ現今ノ所要ニ適スル者ニ非ス元老院ハ今
人ノ要求スル「マナー」即チ精神ニ非ス地方官會議
議ハ今日政府ノ依頼スヘキ国民代議員ト同シカ
大審院ニテ為スカ如キ裁判ハ日今国民産共外國交際ニ
要スル所ノ裁判ニ非ス○財政ハ然ラス毫モ名称ト詛語ト後
未猶永存シテ行ハル可キモノナリ之カ性質タル明白

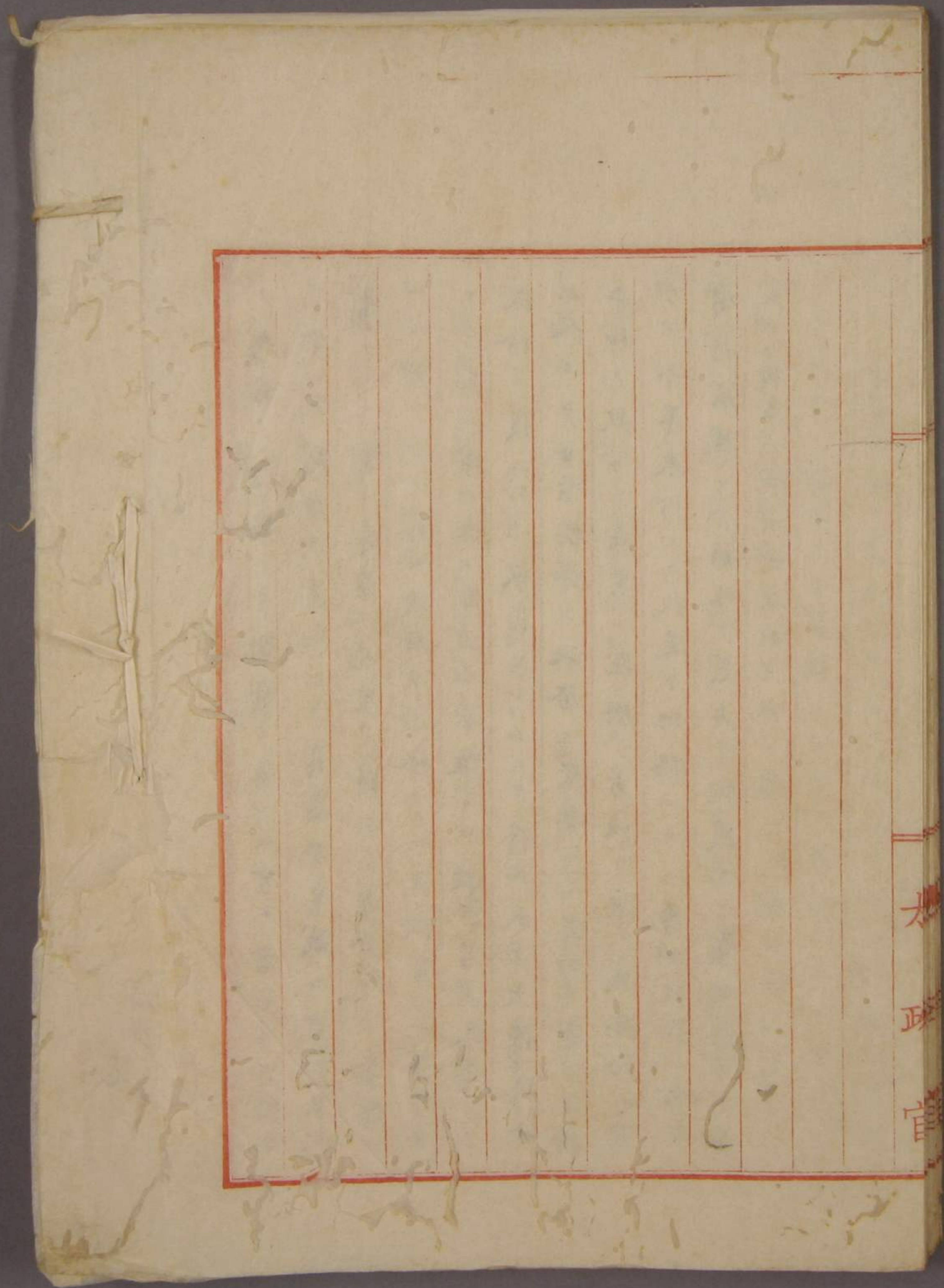
確實真正ノ三事ハ尤モ其名譽ニシテ尔来公布セル報
告書ニテ名実相当ナルヲ證スルヲ得可シ是故今後
ニ要スル所ハ有効ニシテ鞏固ナル検査ヲ立テ、事業
ヲ完成スルニ在ル而已是レ日本ノ理財ノ大慶ニ蓋
ヲ算成スルナリ之レ無ケレハ彼令何程作為スルトモ
竟ニ事業ノ結局ニ至ラス

右ニ所謂検査ナルモノハ容易ニ了解ス可キ事ニシテ
之ヲ行フモ亦難キニ非ス即チ真ノ政事上ノ諸改革ト
密接セラ離ル可クナル事ニテ國民ハ直接代理人ノ媒
介ニテ其権理ヲ施行セシムルナリ善ク歳計書ヲ定メ
租税ト出費ヲ議シ其使用ヲ監スルハ此代理人ニ非レ
ハ能ハス
見テ吾輩ノ思想ハ常ニ同一點ニ在リ立憲政体ノ實施

ナリ民選議院ノ設立ナリ國ヲ以治ムルノ政府ヲ立ム
ナリ日本ノ諸相之ヲ蒸解スル勿レ執拗ナルヲ勿レ是
レ吾事ナラス早晚必ス其秩ニ嬰ラン諸相預ラシ服ヲ
歐洲ノ既往ト現今ニ注ク可レ股鑑遠キニ
非ス

吾輩之ヲ関ク大久保氏ノ没セシヨリ以後内閣ニテ
大成カヲ有スル者ハ獨リ大隈氏ナリト吾輩モ亦同
氏ノ大才ヲ異議スル者ナキヲ知ル依テ氏ハ日本方今
ノ形勢ニ於テ大美名ヲ博ス可レト信ス氏ハ既ニ
テ國事ニ致シテ高位高爵ヲ得タリ今若シ其同僚ヲ導
テ國民ノ希望スル自由政治ノ道ニ入ラシメ吾輩ノ示指セ
ル如ク其事業ニ完全ナラシメハ万世不朽ノ名譽ヲ得
此ノ目的ヲ達スルニハ猶ホ一人ノ在ル有リ久

ノ輿論ノ相照シテ諛拳ヲ共ニス可キ者トスル所ナ
リ誰ソヤ副島氏其人ナリ其高才卓識ニシテ且沈
着ナルハ真ニ適當ノ人望ヲ得タリ方今人ノ了解セ
サル所ニシテ而モ政府ノ急務タル大改革ノ緊要ナ
ルヲ知ル者ハ氏ニ非スシテ誰ソヤ故ニ若シ氏ヲシテ
政務ニ復スルヲ承諾セシムルヲ得ハ氏ト大隈氏ト
二人ニテ日本總体ノ政務ニ緊要ナル方向ヲ定メテ其
平和ヲ致サン産業ニ隆興ノ方法ヲ共ニ且安全ヲ授
ケン十年來行ヘル改進黨ト相協ハサル專制政治ニ依テ
腐朽屈撓セル國人ノ氣力ヲ恢復セン奮發力アル國
民ニ相当ノ事ヲ成サン



大
政
官